

(国語科・人権総合学習)

自分・仲間・地域のつながりから、豊かな人権感覚をもつ子どもを育てたい

自分らしく考え、伝え合う活動を通した自尊感情の支援のあり方

大阪市立敷津浦小学校 教育内容部

1. はじめに

本校はこれまで人権尊重の教育に取り組んできた。各学年・学級の実態にあわせ『自分を大切にすることを引き出し、友だちを大切にすること』というねらいで様々な取り組みを展開してきた。2012年から今まで蓄積された実践を大切に、国語科の学習目標をおさえながら、人権総合学習に取り組む子どもたちの人権感覚を養い育んでいくために「国語科・人権総合学習」の研究を行ってきた。研究の1年目は、カリキュラムの作成等の土台、骨格づくり、2年目はその土台、骨格を確かにするための研究、3年目は一層の深化・充実を目指して「考えを伝え合う」という活動を重点においた研究を、そして今年度は「さらに子どもたちの考えを揺さぶり、深めていく」ことを目標に研究を行った。

2. 研究の概要

(1) 人権総合学習年間指導計画の精選

本校は人権総合学習について多くの実践をおこなっている。そこで様々な実践がその場限りのものではなく、年間を通して連続性のある取り組みとなるように、人権総合学習の年間指導計画を作成し、より系統立てた指導ができるよう取り組みをすすめてきた。年間指導計画を基本として、これまでの研究の中で教材開発されてきた読み物教材について前年度の課題をもとに指導法の再検討を授業研究を通して毎年実施し、さらに各学年の実態に応じて読み物教材の開拓を行ってきた。そしてその中に視聴覚教材や体験的学習、外部の講師の方をはじめとする人々との出会いを差し込むことで子どもたちの知識、理解、思考を深めさせ、人権感覚がより効果的に養うことができるように努めてきた。

(2) 豊かな読みにつながる手立て

今年度の研究主題の副題にもあるように、子どもたちが「自分らしく考え、伝え合う活動」に対して主体的に取り組んでいけるようにするためには、子どもたちが教材を「豊かに読みとる」力をつけていくことが必要と考え、次の手立てをとった

- ・子どもの発達段階に応じたワークシートの作成など、本文の内容を正確に読み取らせられるような手立ての工夫。
- ・視聴覚教材や資料の提示、発問や発問計画の工夫を通して、子どもたちがより自分の考えをもちやすくなるような授業の工夫。

- ・住之江図書館との連携をはじめとして、朝の読書タイムなどを通じての読書活動の

充実。

上記の取り組みを行い、子どもたちの学習へ興味関心を高め、自分の考えをもちまたその考えを書くことができるように支援した。

(3) 話し合い活動における様々な工夫の構築

子どもたちが教材について自分なりに読み取り考えることで自分の考えをもち、その考えを友だちと共有し、より深めることができるように話し合い活動の充実をめざした。各学年の実態に応じた話型の導入、少人数での話し合いを活発にするための発表ボードの使用、机の配置等の工夫などをはじめとして、子どもたちが「伝え合う活動」に取り組みやすいように様々な支援を行った。

3. 研究のまとめ

(1) 成果

- 4年間の研究の中で年間指導計画をはじめ、視聴覚教材、外部講師、体験学習の実践など今後、職員の入れ替わりが多くなると考えられる中、人権総合学習を継続していくための多くの蓄積を得ることができた。
- 様々な手立てにより、自分の考えや意見を書くことが苦手な子どもの中にも、自分の言葉で書いたり発表したりすることができる子どもが増えてきた。また話し合い活動の話型が子どもに定着しつつあり、今後も継続的に取り組んでいくことでより充実した活動をめざしていきたい。
- 多くの体験活動や話し合い活動でおこなわれた子ども同士のコミュニケーションの中で自分のよさに気づき、友だちのよさを認める雰囲気ができつつある。また友だちから自分の意見を認められることによって自尊感情の向上につながったと思われる。

(2) 課題

- 各学年での話し合い活動の充実は図れたが、学校全体での系統立てた指導法の確立は難しく、今後も継続して研究を重ねていく必要がある。
- 今後も職員が一人ひとりの子どもの背景としっかりと向き合いながら、子どもの実態に応じて常に年間指導計画や指導法の見直しを続けていく必要がある。また様々な課題について子どもたちに考えさせ合っていくためには、職員のさらなる人権感覚の向上が必要と思われる。